



DIFAR とは、ボリビアで使われているスペイン語 Desarrollo Integrar de la Familia Rural「農村生活の総合的な発展」の頭文字です。ディファールと読みます。

市役所がリサイクルシステムを順調に運営！コマラパ市

2011年にリサイクルシステムを導入してDIFARは撤退しました。その後、コマラパ市役所が継続運営を行って2年目になります。どこの市にも先駆けてのリサイクル事業を持っているという事でビジターが多く、ビジターが来ることで市の意識も高まり・・・と良い展開になっています。回収車の老朽化、市民へのモニタリング等、色々課題はありますが、今のところ、市の重要政策として位置づけられている事は支援が活着しているという事です。(瀧本里子)



コマラパ市のリサイクルセンター DIFAR スタッフから市職員となつてリサイクル事業を推進しているイボルト君を瀧本夫妻が訪問しました(次ページに関連記事)

今号のもくじ

- 1 コマラパ市リサイクルセンター
- 2 ボリビア訪問 / チャコ地区の活動
- 3 NPO 法人としての組織力強化
- 4&5 バジエグランデ プロジェクト
- 6 Expo Bolivia in Mie / リレーコラム スタッフの一言
- 7 DIFAR の物品販売
- 8 入会案内 / これからの予定

コマラパ市とバジェグランデ市を訪ねて

里子から「一緒にアルゼンチン旅行しよう」と声がかかり、声がかかった時が吉日とばかりに南米旅行を計画しました。

コマラパ市では、現在は市が管理している堆肥場や、生ごみの回収作業を見学し、今は責任者になっているイボリト君にインタビューをしました。

彼がとても明るく闊達に、情熱を燃やして堆肥作りの仕事を楽しんでいることや、堆肥の管理がきちんとされていること、出来上がった堆肥はすぐに売れて在庫が全くないことでこれまでの活動が確実に根を張っていることが実感できました。また町中の至る所で「さとこ！」と声がかかり、しっかり人間関係を築いてきたことが成果にも繋がったと思いました。



車で2時間ほどでバジェグランデ市です。市長さんにお会いして、これから始まるプロジェクトへの期待と自助努力を聞き、私はこれから5年の事業期間に是非、スタディツアーを企画し、この素敵な町や事業の様子を実際に見てもらえたらと切に思いました。(規久子記)

写真：バジェグランデのチェ・ゲバラを讃える施設の前で、里子と孫たちと

チャコ地区 生ごみ堆肥作りスタート！！

ボリビア第二の都市サンタクルス市はラテンアメリカの中でも急速に経済成長をしている中、失業者は増え貧富の差は拡大しています。

人口 200万人の都市の中で最も貧困地区と呼ばれる3つの地区の内、廃棄処理場の近くにある「チャコ地区」に住む子供たちと活動しています。家から出る生ごみを持ち寄り、ある堆肥材料と混ぜ、堆肥を作り野菜の種を播いて野菜づくりをしてその野菜を売ろう！という計画です。一番最初の作業前に皆に「なぜ、ここに来たの？何を覚えない？」と聞くと「野菜作りを覚えない」「野菜を売ったお金が欲しい」と皆目的は明確でした。毎週土曜日の朝に集まり作業をしますが先週で3回目、種まきをしたピーマン、レタス、パセリ、セロリはもう芽が出ています。

種まきをするのは殆どの子供たちは初めてでとても楽しんでやっていました。畑も、毎日サッカーをする空地の横を皆で鍬で土を柔らかくして、畝を立てラデッシュを播きました。(2012年10月 里子記)



NPO 法人 DIFAR 国内事務局 組織力強化中！

2011年 DIFAR は、NPO 法人を取得し、特定非営利法人 DIFAR となりました。NPO 法に基づき、認証された団体ということで、国内事務局も整備しています。



今後 DIFAR の国内活動も活発にしたいと、まずは国内事務局を組織力アップを目指して会合を重ねています。DIFAR の活動を広く伝えていくために、「JICA 組織力アップ！NGO 人材育成研修」のアドバイザー派遣を活用して広報部門を勉強中です。津市市民活動センターの会議室で、IT プロの稲垣博文先生（美里で活動中）による講義を月1回11月から2月まで受けています。皆でパソコンやスマートフォンを持ち込んで、四苦八苦！？



「へえ～ほお～」現代ツールを使いこなす日を目指して、日々進化中。映画にもなって話題になっている

Facebook を使って、DIFAR のページも立ち上げました。皆さん覗いてみてください♪インターネットで

DIFAR と検索して頂

ければすぐ出てきます。次回の研修は、1月24日夜、1月25日午後です。会員ならどなたでも参加可。興味のある方は事務局までご一報下さい。

今後は NPO 法人として、理事会や総会も計画中であり、国内の活動も「こんなことしたいね」「やりたいね」夢は膨らんでいます。ボリビアに思



いを馳せながら日本国内でも皆様と繋がる場が持てるように企画しています。

右は、美杉の瀧本家の前での一枚です。里子さんや瀧本ファミリーに関わりがある人も、国際協力やボリビアに興味がある人も、農業やエコに関心がある人も、DIFAR に集い、語り合い、輪・和が育っていきますように！
(水口)

バジェグランデ市のリサイクル事業、JICA 草の根技術協力の受託にむけて

2011年にJICA草の根技術協力パートナー型委託に内定したバジェグランデ市1500家族を対象にしたごみリサイクルプロジェクトの方は、長かったボリビア政府のNGO手続きも終盤を迎え、12月には、やっとJICA中部との契約にこぎつけられそうです。

手続き終了後は2013年から5年間のプロジェクトの予定です。

コマラパでの実績にもとづいて、リサイクルセンターを建設、学校や地域の組織での環境教育、戸別訪問での生ごみ堆肥化指導、毎週の生ごみ収集車の配置など、やりたいことが山積みです。(2012年10月記 里子)

バジェグランデ市って どんどこ：コマラパと同じサンタクルス県にあります。バジェとは「谷」、グランデは「大きい」というスペイン語です。住民は、バジェグランディーノと呼ばれ、この地に誇りを持っています。果樹、畜産農業の盛んな地域です。桃の特産地です。

ここのカーニバルは、ボリビアでも有名です。産物の豚やトウモロコシ、カボチャ、牛乳とシンガニのお酒（リンポーヨ）、ワイン、干し肉、パンが振る舞われ、人々は、町中を楽隊とともに踊りまわります。トウモロコシの皮の民芸品や織物も作られています

もうひとつ、バジェグランデを有名にした出来事がありました。キューバ革命を成功させたチェ・ゲバラが南アメリカのゲリラの学校として、この地の奥の渓谷地帯を選んで訓練をしている時に、軍隊につかまり、処刑された遺体が世界に公表された場所でした。銃殺されたのはラ・イゲラ村で、バジェグランデの中心地から20キロ以上山道を行った寒村です

チェの遺跡を巡るツアーなども、バジェグランデ市の観光案内所が幹旋しています。



トウモロコシ人形のValleちゃん



写真 バジェグランデのカーニバル 農園主が豚の料理を振舞いながら行進。プラザの前は大勢の人で一杯。

写真： 左から
JICA ボリビア事
務所の担当者2
名
瀧本里子
バジェグランデ
市長のカストロ
メロ氏
JICA 中部担当者、
公共工事担当の
エルウィンガル
ビス氏
弁護士のマンソ
リ氏
環境課のサバ氏



JICA 中部よりバジェグランデに視察に来られました。

近況

待ちに待っているバジェグランデ市のごみリサイクルプロジェクトの様子をお伝えします。

D I F A R がプロジェクトの内定のお知らせを頂いたのはあの、東日本大震災のすぐ後でした。日本中が大変な時に遠く離れたボリビアのプロジェクトが採択された！？と嬉しいような、本当にいいのか？と複雑な思いで過ごしたことを思い出します。

採択されたらすぐにでもプロジェクト実施！と思いきや、ボリビア国内でのNGO登録が待っていました。ボリビアは政権が2005年に代わって以来外国のNGOの活動の登録が相当な時間がかかっており、普通なら3年はかかる・・・という見込みでした。

J I C A の方もいつまでも待つてはくれないため、2年間というタイムリミットで何とか実施にこぎつきたいと書類作成、追跡作業を行ってきました。関係省庁は全てラパスにあるので遠く離れたサンタクルスからはただただ電話で追跡を行うのですが、何度も「直接担当に会ってなぜ、こんなに書類は進まないの?!」と言いたくなる時が何度もありました。

しかし、その中でも私たちの悲痛な電話での追跡に同情して書類が進むように協力してくれる人も現れたりして何とか目途がつき、そしてまた止まり、またちょっと進み、また止まり・・・の繰り返しでやっと最終段階の外務大臣次官の机の上にサインを待つばかりと書類が置いてあることを1月4日に、確認しました。今後の予定は実施に向けて、NGO登録を終了次第、J I C A と契約を行いその後実施に入ります。今年3月から実施の予定です。

バジェグランデ市の方も心待ちにしている、実施が本当に楽しみです。プロジェクトが始まったらぜひみなさんの意見、アイデアなども反映させていいプロジェクトを作っていきたいと思います。(里子)

楽しかった *Expo Bolivia 2012 Mie*

9月22,23日に、三重県総合文化センターで開催された日本ボリビア人協会主催のEXPO BOLIVIA 2012 MIEにDIFARも出展しました。DIFARは、活動のパネル展示、モズク・美杉の無農薬米・ボリビアの織物・石垣島からのドラゴンフルーツ・このイベントに間に合わせるよう作成した絵葉書等を販売しました。橋本力男さんは、オーガニックフラワーを販売、橋本美帆さんは、23日にフラワーアレンジの教室を開催して「花」を添えてくださいました。DIFAR関係者は、名古屋や九州、大阪からも駆けつけてくれました。22日は、ボリビアクイズを実施したので、来展者がこのブースに足を止め、ボリビアに関心を寄せてくださいました。クイズが日本語だったこともあり、ラテンアメリカ出身の回答者は、3名のみでした。スペイン語版も作って、来場のボリビア人の方にも書いていただけるようにしたら良かったと反省しました。



売り上げ利益は、出展費用とスタッフの交通費、材料費に相殺されて利益計上はできませんでしたが、

DIFARの活動やボリビアを知ってもらう良い機会になりました。ボリビア料理ブース、展示品、ステージでの音楽・民族衣装での各踊りも楽しく、心躍るイベントでした。ボリビアの方々との交流、協力関係を深めていきたいと感じました。2013年度は、三重では5月に開催されるとのことです。8月には、DIFAR主催で美杉の森で、交流イベントをしたいと現在計画中です。(安堂)

.....: リレーコラム スタッフの一言 「亜紀ちゃん」 :.....

雪深い新潟県出身の水口亜紀(みずぐちあき)です。2010年の6月末から2012年6月末まで、青年海外協力隊でボリビア、サンタクルス市に派遣されていました。現地で瀧本里子さんのお話を聞き、なんてパワーにある人なんだ!と刺激を受け、縁あって日本国内のDIFARとつながりが持てるようになりました♪ ボリビアでは青少年活動という職種で、貧困層の子どもたちに遊び場をつくる活動をしていました。子どもの笑顔はどこの世界も同じで、こっちまで幸せになっちゃいますね(*^_^*) ただ炎天下のサッカーは辛かった・・・。ボリビアから帰ってきて半年経ちますが、7Kg太った体重が元には戻りません~(>_<) とは言いつつ、日本の味を楽しんでいます♡ よろしくお願ひします(^v^)



DIFAR の物品販売

2013 年カレンダー完売

活動資金を作るため、バジェグランデとコマラパの写真でカレンダーを作りました。コマラパの写真以外は元サンタクルス県の農林部局で働いておられた、Walter さんのアルバムから里子さんが選んでくれました。日本とボリビアで時を共有したいという願いを込めて、月や曜日の名前は、スペイン語と日本語併記にして、日本とボリビアの祝日を入れました。印刷資金を出してくださった「やまとカーボン社株式会社」会長、デザイナーの堀江悠介さんの協力で 400 部刷りました。残部はありません。



絵葉書販売中

タリハ県の風景を写真家の Cimar Aguirre 氏が撮ったものを山本あづささんのレイアウト協力で絵葉書にしました。まだ、事務局に残部があります。

| | |
|-------------|-----------|
| Bolivia 絵葉書 | 1 枚 100 円 |
| | 6 枚 500 円 |

もすぐ、予約受付を開始します！

生産者の小浜島在住大城由美さんに聞きました。今年は、例年よりモズクの芽出しが早く、今のところ順調だそうです。先のことはわからないので確約ではないですが、早くから出荷できると見込んで（3月～）、予約受付を開始します。1 缶での購入だとちょっとと思われる方に、今年は半缶を設定することになりました。少しでも多くの方々に、八重山のおいしいモズクを食べていただきたいです。値段は据置ですが、半缶は手間がかかるのと、送料の点で少し割高になります。

1 缶 (18 kg) 天然モズク 13,500 円 養殖モズク 12,600 円
1/2 缶 (9 kg) 天然モズク 7,500 円 養殖モズク 7,000 円



ボリビア民芸品の販売

昨年のボリビア行きで、少しですが民芸品を買ってきました。織物、子供用のポンチョ、帽子、バジェグランデのトウモロコシ人形などです。イベントやフェイスブックで見ただけのようにしたいと思います。（規久子）

いずれも事務局にお問合せ、お申込みください。
Tel&Fax 059-212-0154 difark@gmail.com

◆DIFAR のイメージキャラクター ディファルちゃん



facebook ページにも載せている、ディファルちゃんとバジュグランデ・生ゴミリサイクルキャラクターValle (バジュ) ちゃん(4 頁参照)を制作しました。堺市の江口さんが、描いてくださいました。

今後 名刺やリーフレットに登場します。みなさへんどうぞ よろしく！

◆4月21日(日)に第2回通常総会と講演会を開催します！

2013年4月21日(日)午後1時開場(総会は3時30分～4時15分)

場所：みえ市民活動ボランティアセンター

(津駅東出口を出てすぐ左隣のアスト津ビル 3F)

記念講演会「国際協力活動と私たちの暮らし」仮題 講師 村上真平氏

講演会は どなたでも参加できます。(会員無料、非会員カンパ)

活動への支援のお願い

DIFAR は会費と寄付金、助成金、物品販売の利益等で運営しています。ボリビアに日本の声が届くように、ボリビアやの活動や文化、人の動きが日本に伝わるように、資金が必要です。皆さまの一層のご協力をお願いします。

{寄付} 随時 いくらでも、切手も可

マンスリーサポーター 毎月 1000 円

{会員} 会費額は次回の総会までの暫定です。

改めて会員登録事務をしています。ご面倒ですが既存の会員の方も同封申込書に必要事項をご記入のうえ、事務局にお送りください。2013年3月末日までにお送りくださった方に詳しい総会の案内をさせていただきます。1月以降に振り込んでいただいた会費は2013年度分に充当します。

正会員 1,000 円/1 口/年 3 口以上で (会の議決権がある)

賛助会員 (個人) 1,000 円/1 口/年 (会の議決権はありません)

賛助会員 (団体) 5,000 円/1 口/年

振込先

郵便振替口座 00890-0-122793 トピ) ディファル

三菱東京 UFJ 銀行 店番 450 普通口座 0649345 DIFAR

NPO 法人 DIFAR 事務局 〒515-3421 三重県津市美杉町八知 1383

Tel&Fax 059-212-0154 携帯 090-8184-5823

Email info@difar.jp ブログ <http://ken-san.sub.jp/bolivia/>

Facebook <http://www.facebook.com/difarnpo>